

## <目次>

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 【取組①】中長期ロードマップ資料の改善 | ・・・P1   |
| 【取組②】地域住民の皆さまとの対話   | ・・・P2   |
| 【取組③】行政向けの情報提供の対応状況 | ・・・P3～4 |
| 【取組④】発電所の現状の理解促進    | ・・・P5   |
| 【取組⑤】海外へのメッセージ発信の強化 | ・・・P6   |
| 【取組⑥】作業員との対話        | ・・・P7   |

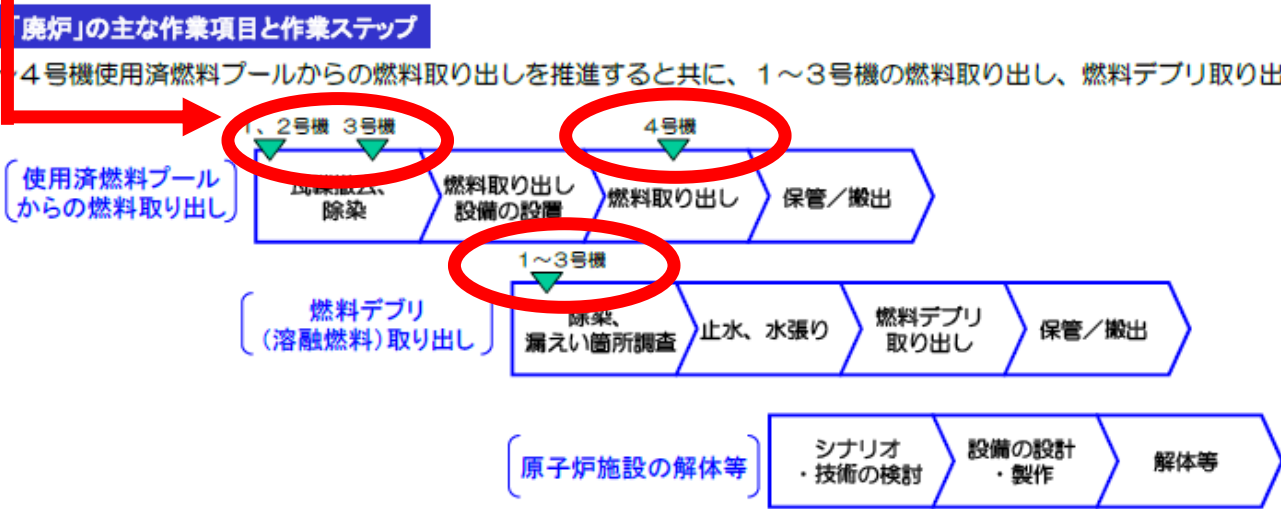
# 【取組①】中長期ロードマップ資料の改善

【主なご意見】 住民帰還に向けて、廃炉作業の内容をわかりやすく正確に伝えるべき。

【取組例】中長期ロードマップ資料について、わかりやすさの観点で都度、改善を継続していく。

## 中長期ロードマップの資料最新版(5月29日公表)における前回資料からの主な改善点

- 廃炉対策、汚染水対策の全体像が視覚的に分かる資料を追加
- 各号機ごとにどのステップにあるのかを追記
- 4号機からの燃料取り出しの進捗割合を%表示で記載
- 全体的に文字を大きめに記載 など



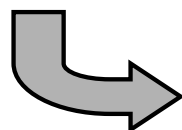
【主なご意見】廃炉・汚染水問題への対応について、状況をきちんと伝えて欲しい。

【取組例】当社社員による仮設住宅訪問や経営層による説明の機会を活用し、対話活動を継続。

## ● 住民の皆さまへの説明の主な実績

- 県主催の“県民会議※”での当社経営層からの直接の説明の実施(実績:計4回)
- 中長期ロードマップの進捗状況について仮設住宅の自治会長等に説明を実施。(約80箇所)
- 自治体発行の広報誌に福島第一の状況をまとめた冊子を折り込み(1~2回/月、9市町村)

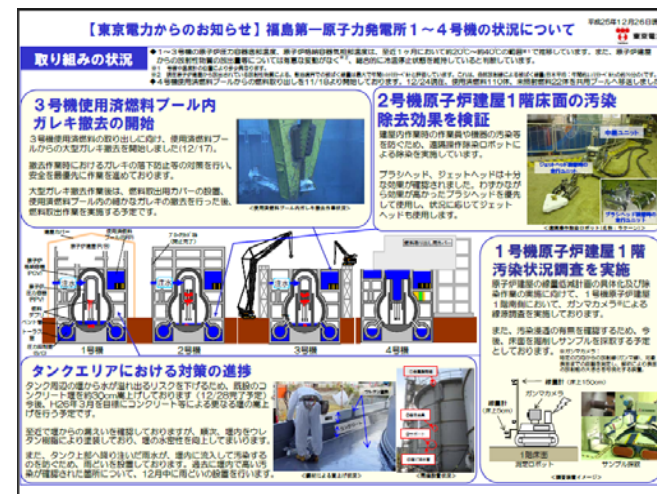
※福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議



経験豊富で調整能力に長けた管理職を増員し、自治体との連携体制を整備予定



県民会議※の模様



冊子の例

【主なご意見】 行政向けの情報については、重要度の区分をしっかりとし、分かりやすい情報提供をして欲しい。

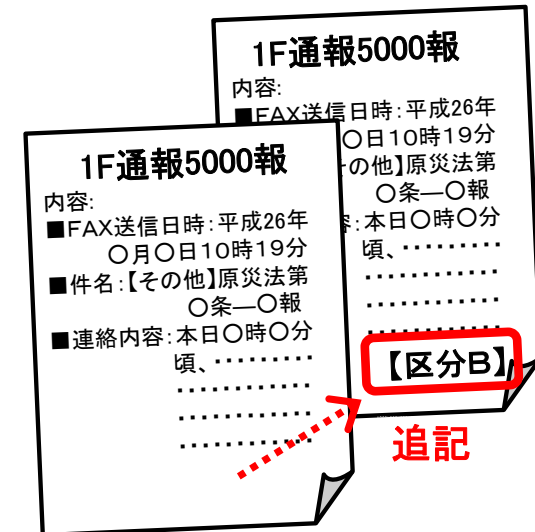


- 平成25年9月に「事故・トラブル発生時の通報基準・公表方法」を定め、重要度(区分A~E、その他)に応じた情報発信を実施
- また、発電所の状況をより正確にお伝えするため、項目の追加や区分の見直しを随時実施(今年2月に改訂済、現在も更なる改訂に向けた準備中)



随時見直し・改善

- 「通報基準・公表方法」の運用開始に合わせて、自治体の担当者さまが重要度を一目で判別できるように、通報連絡に区分(A~E、その他)を追記



## 【取り組み方針】

- 福島第一における事故・トラブル等発生時の迅速・的確な通報連絡および公表対応を目的に、県内自治体とも協議し「通報基準と公表方法」を定め、H25年9月より運用を開始。

## <事故・トラブル等発生時の公表方法、タイミング>

区分	考え方	公表方法・タイミング
区分A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷温停止状態の維持に影響を与えるもの</li> <li>・周辺環境への影響が考えられるもの</li> <li>・重大な人身災害(大量な放射線被ばくなど)</li> </ul>	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>緊急記者会見</u> で説明。
区分B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷温停止状態の維持に影響を与える可能性があるもの</li> <li>・周辺環境への影響の可能性が排除できないもの</li> <li>・社会的に重大な関心があるもの 等</li> </ul>	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>定例会見</u> で説明。必要に応じて臨時会見を実施。
区分C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの</li> <li>・社会的に大きな関心のあるもの 等</li> </ul>	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>定例会見</u> で説明。
区分D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの</li> <li>・社会的に関心のあるもの 等</li> </ul>	<u>定例会見</u> で説明。必要に応じて、報道関係者への一斉メールで公表。
区分E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所施設運営に係る設備のごく軽度な故障</li> <li>・計画作業、操作 等</li> </ul>	<u>定例会見</u> で説明。

高  
↑  
重要度  
↓  
低

※運用実績や社会的関心の状況等をふまえ、適宜必要な見直しを実施。

【主なご意見】 手続きの緩和などを通じて、自分の目で発電所の現状を見る機会を設けて欲しい。

## 福島第一原子力発電所視察に関する現状

- 現場環境を踏まえた視察者の安全確保や現場作業を考慮し、視察対象者を限定している状況（例：福島県内の行政、議員の方、廃炉作業への技術的な支援者、報道関係者等）  
→ ご意見をいただいた福島県商工会青年部連合会のほか、日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会の方について、福島評議会メンバーとして7月以降に視察予定



## 視察者増加に向けた取り組み

- 多くの視察を受け入れるために、視察専用定期便バス※の運用開始（2014年1月～）
- 定期便の活用拡大や視察対象者の拡大を図るべく受入体制の整備など改善を計画中  
※複数の団体の乗り合いバスで、車中のみからの視察

## 発電所の現状を多くの方に知っていただくための取り組み

- 視覚的かつ体感的に福島第一原子力発電所の状況をお伝えするため、「福島第一原子力発電所ビデオツアー」動画を当社ホームページで公開中（内容は適宜更新を予定）



## 【取組⑤】海外へのメッセージ発信の強化

【主なご意見】 風評被害対策の観点からも海外へのメッセージの発信をしっかりとお願いしたい。

【取組例】様々な情報経路を活用した情報発信に心掛けるとともに、第三者による発信力も活用。

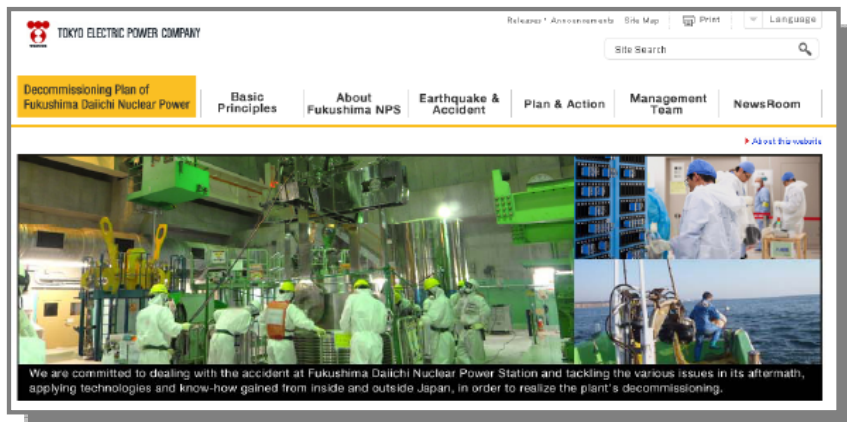
汚染水問題が顕在化した昨年8月以降、当社からの情報発信を強化中

- 駐日大使館への訪問説明実施(16ヶ国)および福島第一視察〔アメリカ 5月14日、ドイツ 6月4日〕
- 海外駐在社員(ワシントン等)による海外での講演活動〔延べ100回以上実施〕
- 福島第一関連の話題に関する海外有識者への英語一斉メール発信〔延べ93回〕 など

(実績は2014年5月末時点)

第三者による情報発信力の効果が発揮された最近の事例

- キャロライン・ケネディ駐日米国大使の福島第一視察(5月14日)  
→海外有名メディアでの掲載(AP・ロイター通信等)、当社フェイスブックへのアクセス数が急増



英語版廃炉・汚染水の専用ホームページを開設



英語でのフェイスブックやツイッターも実施中



ケネディ大使

【主なご意見】 掲示板等での一方的な周知だけではなく、共通認識を持てるよう直接の対話の場を設定するなど、組織的に取り組むべき。

【取組例】 元請企業の朝礼など作業員との対話の機会を充実させ、災害の発生を予防していく。

### ● 福島第一での安全活動(昨年度より継続して実施中)

現場力強化の方針として、主に以下の観点にて基本動作の徹底に取り組み中

- 福島第一特有の3H(変化、初めて、久しぶり)作業に対する安全事前評価の確実な実施
- 事前検討会の的確な実施と当社監理員による確認
- 現場に則した作業前打ち合わせによる確実な危険予知活動
- 現場での基本動作・安全基本ルール遵守の徹底 など

### ● 上記に加えて6月に重点的に実施する活動

- 各元請企業の朝礼に参加し、人身災害の発生を防止するために災害発生事例の紹介や注意喚起を実施
- 入退域管理棟入口にて、災害事例の写真等も掲示しながら安全に関する注意喚起のための作業員への声かけを実施



現場での打ち合わせ(福島第一)